

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

東アジア近世の地域をつなぐ関係と媒介者

Inter-regional relations and mediators in early modern East Asia

2. 研究代表者氏名

岩井茂樹

IWAI Shigeki

3. 研究期間

2014 年 4 月 - 2017 年 3 月 (3 年度目)

4. 研究目的

近年の中国の経済的・政治的抬頭は、東アジアのみならず世界秩序全体の構造変化を促す大きな要因である。これにともない、過去の東アジアにおける諸国家および諸地域間の関係と秩序がどのようなものであり、それをいかに評価すべきかという問題に歴史学は大きな関心を寄せるようになった。19 世紀中葉まで、中国の「天朝の秩序論理」が地域間関係が具体的に形成されるうえでさまざまな影響を及ぼすと同時に、地域間の物流に依存する個人や集団が政治外交の担い手とは異なった固有の利害状況にもとづいて、秩序形成に関与してきた。国家の立場から表出される政治外交的な利害と、地域間媒介者の立場から表出される個別的・私的な利害との間の対立や協調に着目することによって、地域のあいだに結ばれる関係の形成過程と、そこにはたらく論理とについて理解を深めることを、この共同研究の目的とする。

7. 本年度の研究実施内容

2016-04-13

会読: 張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 岩本真利絵 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

発表者 宋宇航 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

2016-04-27

会読: 張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 張子康 京都大学大学院文学研究科修士課程

発表者 後藤陸 京都大学大学院文学研究科修士課程

2016-05-10

明朝による無祀鬼神祭祀政策——祭厲制度と蒋山法会

発表者 濱野亮介 大谷大学

2016-05-18

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 城地孝 同志社大学文学部

発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤

2016-05-31

「誣告」問題と情理秩序 —— 同治朝巴県の「租佃関係」に関する誣告案件を例にして

発表者 凌鵬 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

2016-06-01

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 岩本真利絵 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

発表者 宋宇航 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

2016-06-14

大礼の議の公私論—明代後期における皇帝の正当性に関する一考察—

発表者 岩本真利絵 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

2016-06-15

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 後藤陸 京都大学大学院文学研究科修士課程

発表者 張子康 京都大学大学院文学研究科修士課程

2016-06-29 会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 小野達哉 文学研究科教務補佐員・非常勤

発表者 凌鵬 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

2016-07-12

元明清公文書の引用終端語再考

発表者 岩井茂樹 人文科学研究所

2016-07-13

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 城地孝 同志社大学文学部

発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤

2016-07-26

柳得恭手稿本『燕臺再游録』から見た冊封使李鼎元の琉球認識と清・琉球・日本・朝鮮四国の国際関係

発表者 木村可奈子 人文科学研究所教務補佐員・非常勤

2016-07-27

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 岩本真利絵 京都大学大学院文学研究科博士後期課程

発表者 後藤陸 京都大学大学院文学研究科修士課程

2016-09-29

会読:張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 城地孝 同志社大学文学部

発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤

2016-10-04

三藩の乱時期の朝清関係と日本

発表者 木村可奈子 人文科学研究所教務補佐員・非常勤

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	7 (1)	1 (0)	0	4 (0)	147 (8)	2 (0)	0	64 (0)
学内	1	7 (2)	6 (0)	6 (0)	0	114 (24)	109 (0)	111 (0)	0
国立大学	5	6 (1)	0	0	3 (0)	58 (7)	0	0	7 (0)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	3	3 (0)	0	0	1 (0)	54 (0)	0	0	6 (0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	2	3 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	20 (18)	20 (0)	18 (0)	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12	26 (5)	10 (0)	7 (0)	9 (0)	393 (57)	131 (0)	129 (0)	77 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	2(0)
------	------

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究期間終了後に研究成果の公開をおこなう。成果 1 張集馨『道成官海見聞録』の電子テキストを Web 上に公開する。成果 2 研究班員による研究の成果を『東方学報』その他の学術誌に掲載する。